

世帯と人口

(8月1日現在)

世帯 44,402 (+ 27)  
 人口 119,349人 (+ 34)  
 男 60,924人 (- 3)  
 女 58,425人 (+ 37)

# 広報えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

\*この広報は再生紙を使用しています。

肥沃な土で育ったホウレンソウ。出荷を控えてチェックに余念のない守屋さん



えびな模様…今里から

## 土と道 活きる里

着々と周辺の整備が進行する海老名駅から、南の市役所方向へまっすぐ走る大きな道路を車でおよそ5分。今回は、ここに広がる今里です。

### 特産イチゴ発祥の地

「昭和20年代まで、家は50戸未満で、主な産業は他の地区と同様農業。稲作が主でしたが、養蚕も行われていました」と話すのは、生まれも育ちも今里の三田喜太郎さん(95歳)。今里の昔を知る数少ない一人です。「父は副業として花火の製造もやっていました。隅田川の花火大会にも納めていたと思う」

昭和5年に仲間と2人、市内で初めてイチゴ栽培を始めた三田さん。これがきっかけで広まり、イチゴは市の特産物に成長しました。「今里の土は、相模川の沖積層なので肥沃です。品質の良いイチゴができました」。また、「この土は粘土質も強くて、家の壁土用として評判が良かった。よそからも掘りに来ていた」とのこと。

今里は、今も全面積の5分の1以上が耕地で、土の良さを活かした野菜や花きの栽培が盛んです。先祖代々の地で野菜を作っている守屋和夫さん(72歳)はこの時期、ホウレンソウを出荷。9月中旬からはタマネギの種まきが始まります。「肥えた土は野菜作りに最適です。特にこのタマネギは最高。甘みや柔らかみが全然違いますよ」

幅の広い道路が多いのも特徴です。昭和29年から40年にかけて海老名町有馬土地改良区では、農産物の増収と農作業の効率化を目指して耕地整理を実施。この際、今里を始めとした有馬地区の農家は、農道・農業水路用地を提供しました。これが近年の拡幅用地として使われたため、広い道路の整備がスムーズだったとされています。

肥沃な土地、広い道路、海老名の顔への利便性。宅地開発も進み、それに伴う住民の増加など、今里は、まだまだ発展を続ける可能性に満ちています。

### 今里アラカルト

- ◎人口(8月1日現在)  
2,435人  
(男1,251人・女1,184人)
- ◎世帯  
795世帯
- ◎面積  
0.57平方キロメートル  
【市全面積 26.48平方キロメートル】
- ◎地名の由来  
今里の「今」は「新」と同じ意で、開拓によって新しくできた集落を意味する。永禄2年(1559)の「所領役帳」に「東郡今里」とあり、戦国時代以前、すでに使われていた地名とわかる。